

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日  
令和2年3月17日（火）
- 2 確認箇所  
既設多核種除去設備
- 3 確認項目  
既設多核種除去設備（C）吸着塔6C入口pH計ラック内での漏えいへの対応状況

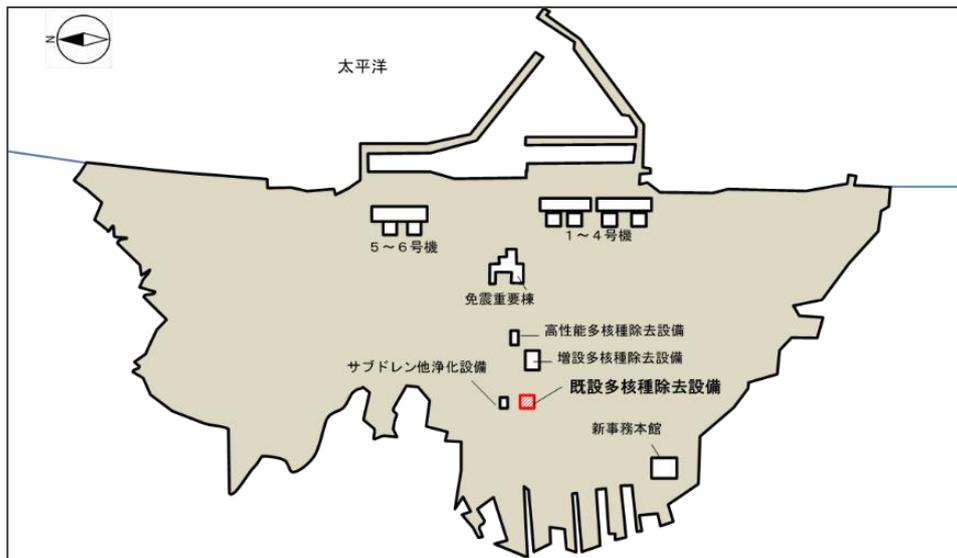
#### 4 確認結果の概要

3月13日18時15分頃に既設多核種除去設備（C）吸着塔6C入口pH計ラック漏えい警報が発報し、東京電力社員による現場確認の結果、サンプルポンプ出口配管フランジ部及びpH計ラック入口弁ボンネット部からの漏えいが判明したことから、状況を確認した。

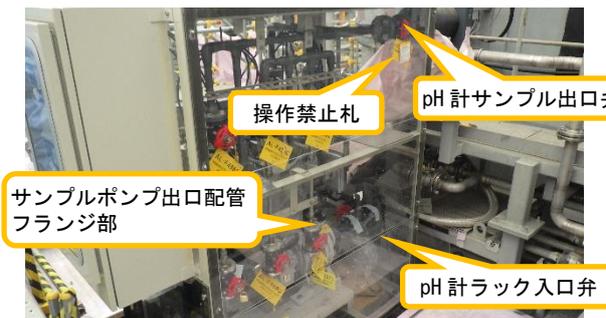
なお、漏えい範囲は約1m×2m×3cm（ドレンパン内）、約30cm×30cm×1mm（ドレンパン外）であり、漏えい水は設備内の堰に留まっていることから外部への影響はない。

東京電力によると、漏えいが発生した原因としては、別の吸着塔の吸着材交換作業の終了後に設備を起動したところ、本来「開」であるpH計サンプル出口弁が「閉」であったため、ポンプ締切運転となり、過剰な圧力がかかっているところにpH計サンプル出口弁「開」操作を行い通水を開始したためと推定しており、今後詳細な原因分析を行い再発防止対策を検討するとのことである。

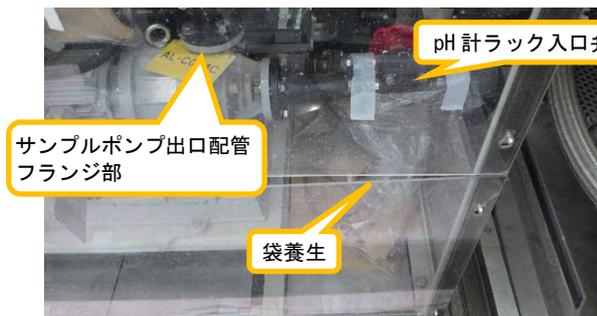
- ・漏えいがあったサンプルポンプ出口配管フランジ部及びpH計ラック入口弁の外観に異常はなく、pH計ラック入口弁ボンネット部には袋養生が施されていた。（写真1）
- ・また、pH計サンプル出口弁には、本事象を受けて操作禁止札が標示されていた。（写真2）
- ・漏えい検知器はpH計ラックのドレンパン内に設置されていた。（写真3）
- ・pH計ラック周辺で、目視確認した範囲では新たな漏えいはなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



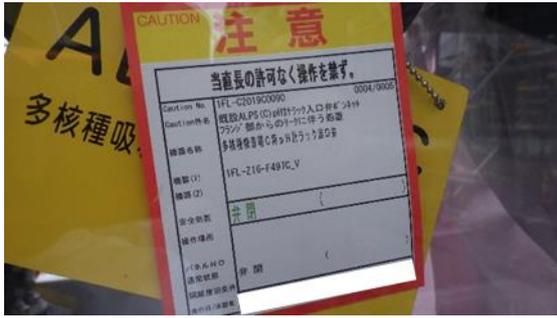
(写真1-1)  
pH計ラック外観



(写真1-2)  
漏えい発生箇所拡大



(写真1-3)  
袋養生箇所拡大



(写真2)  
pH計サンプル出口弁に標示されている  
操作禁止札拡大



(写真3-1)  
漏えい検知器設置箇所  
赤丸部分に設置されている



(写真3-2)  
ドレンパン内の漏えい検知器の設置  
状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。